

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和7年3月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100393
法人名	医療法人 友志会
事業所名	グループホーム 良友
所在地	鹿児島県鹿児島市玉里団地二丁目5番1号 (電話) 099-229-8222
自己評価作成日	令和7年2月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和7年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玉里団地の中心部に位置し、周囲にはスーパーや郵便局、医療機関、学校などがあり、とても利便性の高い所に建っている。同法人のクリニックが敷地内にあり、医療との連携がスムーズにでき健康面で安心して生活できる点が大きな強みである。また、同系列のグループホームも敷地内にあり、災害時や緊急時の連携が取れている。多くの場面で制限されることの多い環境の中でも、感染対策を行い面会を実施したり、毎月行事等を行い、季節の移り変わりや昔の思い出を振り返り楽しい時間を過ごせるよう配慮している。また、地域の行事等にも出来る限り参加し、運営推進会議では、長寿あんしん相談センターや町内会長、民生委員の方々をお呼びし、入居者様やご家族様とともにホームの活動について意見を頂きサービスの向上に努めている。日々の散歩など外出できる機会や六月灯やバーベキューなど外でのイベントも行っている。また、毎日体操やレクリエーション、家事のお手伝いなどを通して、生き生きと生活できるように支援している。職員は入居者に明るく接することでいつも、笑顔が絶えないホームを目指しており、クリニックやご家族、地域の方々とも密に連携を取り、包括的に支援できるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、ちょっと立ち寄ろうかと思わせる雰囲気のアレンジテラスを併設しており、地域住民や愛護会の子ども達が和気あいあいと集う、地域に開かれたホームである。
- ・入所時マニュアルに基づき説明し、「事前意思確認」をして、早期から主治医や看護師・家族・関係者と話し合いを重ね、家族と共にチームで支える、看取りの体制ができている。
- ・疾病の予防や早期発見に努め、利用者が安心して生活できるように支援をしている。
- ・コロナ禍の中、地域住民とのコミュニケーションや町内会活動など減少される事が多いが、家族参加のホーム行事を工夫して、毎日が楽しいものになるような支援をしている。
- ・行事食や食材を地域の商店から購入し、利用者の個々に応じた力量を活かし、食事作りに参加してもらい、職員が手作りした食事を一緒に食べて食事が楽しいものになるよう支援している。
- ・管理者や職員は、数多くの研修・勉強会で資格取得に励み、ケアの質レベルアップを図っている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を事務所や廊下の壁に掲示し常に意識しケアに取り組めるようにしている。また、ミーティングでも定期的に理念についての意識統一を図っている。来訪者も見られるようにしてあることで、第三者からも理念を意識した運営ができているか確認できるようにしている。	理念はホールに掲示し、毎日唱和して、ケアの中で絶えず振り返りや確認を行い、理念を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策をしながらも町内会に属し、運営推進会議への町内会長や民生委員の参加、地域のイベントやまちづくり協議会への参加など可能な限り参加し交流に努めている。	所内オレンジテラスが愛護会や町内会等、地域住民の活動の場となり、利用者や職員も参加している。コロナ禍でも対策を講じ、散歩時の声掛けや挨拶・買い物等、継続している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議には入居者も一緒に参加して頂きながら、認知症の人への理解を推進している。また、当ホームでの支援の様子等をご紹介します、地域でもできることをお伝えしたり、地域で困っていることなどに地域ケア会議でもアドバイス等行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している運営推進会議には入居者やご家族、地域の町内会長や、民生委員、長寿あんしん相談センターにも参加して頂き、当ホームでの支援の様子等をご紹介します、今後の運営方針等へのご意見を頂くことで更なるサービスの向上に努めている。	コロナ禍の中でも委員の出席があり、現状報告や課題報告等、話し合いが出来ている。面会時や電話・手紙等での意見要望等を紹介し、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営に関しては長寿支援課や介護保険課等にアドバイスを頂きながらサービスの向上に努めている。	担当者に困難事例報告や相談・利用者の暮らしぶり・ケアの様子を伝えている。研修に参加したり、地域包括支援センターの職員と密に連絡を取り合い、協力関係が築けるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月身体拘束廃止委員会を開催し、マニュアル等の確認を行うことで、理解を深めている。また、身体拘束にあたらぬも立ちにくいなど入居者の目線で行動の妨げにつながっていないか意識するよう研修等で意識を高めている。	法人全体で身体拘束廃止委員会を開催し、事例検討会やケアの適正化について研修会を行っている。アンケート調査を年3回実施し話し合い、利用者の意向や安全安心を図っている。見守りの重要性を全職員が理解し、身体拘束をしない暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月虐待防止委員会を開催し、マニュアル等確認を行うことで理解を深めている。今年度より虐待防止に関する指針等の作成も行い、これまで以上に意識を高め取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度・権利擁護については事業所ミーティングで研修をして理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者、家族へ理解して頂けるよう、分かりやすい言葉選びや説明により同意を得るようにしている。また、改定時にはその都度書類を郵送して同意をもらうようにしている。重要事項も玄関に掲示することによって確認できるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎回玉里便りでホームの様子をお伝えし、運営推進会議には入居者、ご家族ともに参加して頂き、意見を聴いている。また、面会時にもその都度要望等ないか確認している。玄関にも意見箱の設置をしたり、第三者委員を置いたりすることで家族も意見を述べやすいよう配慮している。	年1回の家族会や満足度アンケート・面会・電話・手紙等で家族からの意見や要望を聞いている。本人からはおやつ時や入浴中の会話の中で意見や要望を聞き、要望を取り入れている。見守りを密にしながら居室での面会や食事の量を調整している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月ミーティングにて、職員間の意見を出し合う機会を設けている。全員で検討し、反映に繋げている。掲示板やLINE等のグループ機能を活用することによって職員も提案できるようにしている。	管理者は日々の勤務の中で職員の意見や要望を聞き、勤務時間に配慮している。年2回面談をして、福祉用具の購入等、働きやすい職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得や研修等の参加について、定期的に情報の提供、支援を行っている。取得後は、向上心を持って働くことができるよう、労働条件や給与に反映できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH連絡協議会に属しており、外部研修に参加できるよう整備している。参加できない場合も職場内で研修等の報告、内部研修等ミーティング時に行っている。業務中でも介助方法等の相談や一つ一つのケアをなぜ行うのかという事を理解して働けるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に属しており、研修等で交流ができるようにしている。また、系列の事業所と合同での避難訓練やイベントを行い交流を深め質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より面会等に伺い、心配や不安な思いに耳を傾け共感できる姿勢で信頼関係を構築できるよう努めている。入居前に利用している居宅等とも連携を取り情報を提供してもらい、ご本人の想いを理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、家族の心配事や不安、サービス利用に関して分からない事が納得できるまで説明し、入居後も、体調不良や何かあった時だけでなく、面会時に普段の様子や状況を伝えるようにし関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在受けているサービスや居宅等からの情報も確認し、ここでのサービスを利用することが、適切か、利用者・ご家族が選択できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の出来る事を見極めながら、個別援助を行っている。職員も含め、入居者同士のコミュニケーションが図れるよう取り組んでいる。家事のお手伝い等、ご本人の役割をもって生活して頂けるよう支援し、関係性を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族に連絡を取り、状況や今後の可能性をお伝えすることにより、ご家族もご本人の為に何ができるか考え共に支援できる関係を築けるよう取り組んでいる。また、ご家族も参加できるイベント等も企画している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	検温やマスクの着用等、感染対策を行いながら、面会を行っており、いつでも馴染みの方との交流ができるようにしている。	面会は感染対策をして時間制限をしない取り組をしている。電話やLINE等の多くの手段を使い関係が途切れないよう心掛けています。家族や利用者が望んでいる外泊が出来るよう模索しながら、関係が継続出来る支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の下準備や洗濯物たたみを一緒にして頂くなど、入居者同士が関われる環境を多く取り入れ共同生活が送れるよう努めている。交流しやすいよう席の配置や環境、雰囲気作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した場合は、次の行先に情報提供を行ったり、その後の相談等をおこなったりすることで、継続してサービスが提供されるようフォローしている。また、いつでも相談できるよう関係性を築けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活から得た情報は記録に残し、伝えることが困難な場合は表情や仕草から思いを読み取り、家族と共に検討し、本人の意向に沿ったケアマネジメントが行えるよう取り組んでいる。	日常のかかわりの中で表情やしぐさ・会話等から希望や意向を汲取り、家族との話し合いや職員の気づき等から思いを把握している。意志疎通が困難な場合、職員の情報や複数の記録簿も参考に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、居宅等関係者よりこれまでの生活習慣、生活歴、馴染みのもの等の情報を収集しケアプランに反映できるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、状態の変化を観察し記録に残し、必要時にはカンファレンスを実施。出来ないことや問題点だけではなく、できることにも目を向け、生活が活性化できるよう支援に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランは、ご本人やご家族の意見を中心に、職員とカンファレンスを行い協議して作成をしている。また、サービス開始前にケアプランをご家族に説明・同意をもらった上でサービスを提供している。必要に応じて変更した場合も十分に協議し、意見等を反映できるよう取り組んでいる。	担当部会で本人や家族の思いや意見を職員や関係者を交えながら話し合い、計画に反映させるようにしている。変化が見られた場合は現状に合わせて介護計画の変更を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活やケアを行う中で、表情や言動、気付いたことを記録し職員間で共有できるようにしている。毎月カンファレンスを行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況に合わせてレクリエーションを行ったり、ご家族の状況なども考慮し、外出支援を行うなど既存のサービスに捉われない、できる限りの柔軟な支援やサービスを心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内活動への参加や訪問カット、オムツの受給サービス等の利用等、様々な地域資源を活用できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内にある同法人のクリニックが訪問診療や診療を行うことで、すぐに医療が受けられると、本人、ご家族から安心を得ている。	数多くのかかりつけ医があり、主治医による往診診療、看護師による日常の健康チェック、体調不良の訴えに受診診療が必要な場合は家族同伴診療もある。複数医療機関と協力関係を密に結んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内にある同法人のクリニックとの連携により、普段の体調管理はもちろん体調悪化時にもすぐに医療と連携できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は入院先に情報提供し、こまめに病院やご家族と連絡を取りながら、今後の方針を決定している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、入居時に説明を行っている。その後も状況に合わせてその都度説明し、クリニックと連携しながら、変化していくご本人やご家族の思いにも対応できるようにしている。	入所時に看取りの指針を説明し方針の共有を図っている。重度化や終末期には本人や家族の意向を優先し、主治医や看護師と連携し全職員で方針を話し合い、家族と一緒に安心して最後が迎えられる体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルに沿って対応できるよう定期的に研修を実施し、職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・昼間想定と地震・火災避難訓練の年2回実施している。近隣の施設等とも訓練を合同で行い、地域の方にも参加して頂くことで協力し合える体制を構築している。	消防署の指導を受け、昼・夜想定で避難誘導訓練を職員や利用者で実施している。防火管理者を中心に非常災害時の対策について研修を実施し、職員の理解と経験を積んでいる。備蓄は水・缶詰・レトルト食品等がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修等を実施し各自のスキルアップに努めている。認知症であっても入居者一人一人の人格や性格を理解し尊重することを基本とし、定期的に権利擁護の研修も行っている。	人としての尊厳を大切に、思いやりの心を持ち、言葉遣いや声かけは年長者として尊敬の気持ちを失わない様に気を付けている。接遇委員会があり振り返りや確認を行いながら、プライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択しできるよう声掛けしている。自分の意思を伝えられない方に対しても、職員の判断ではなく、その方の表情や仕草、これまでの生活環境や習慣から思いをくみとれるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にもあるように、入居者様本位の介護が提供できるよう意識している。常にそれが入居者様のために行われているか、職員の都合で行われていないか、意識しながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入居者一人一人の生活歴を把握し、好んでいた服やおしゃれを続けていけるようにしている。着やすいものではなく、着たいものを選ぶよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は食べやすい大きさに切り、目でも楽しめるよう盛り付けに工夫を凝らしている。テーブルふきなどのお手伝いをして頂き食事が楽しくなるよう配慮している。入居者の食べたいものを聞き取り、希望のあったメニューを提供したり、イベント等ではお菓子づくりや調理を一緒に楽しんでいただけるよう取り組んでいる。	旬の薬膳食材を使いながら利用者と一緒に食事準備をしている。嗜好や食形態に配慮し、栄養バランスを考え、行事食を数多く取り入れて、食事は職員も一緒に行い、楽しいものになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考え、食べやすい献立を考え提供している。食事量・水分量は記録し、共有している。摂取量が低下している場合などは補助食品等の提供や食事提供時間を変えるなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が各入居者に声掛けし、ADLに合わせて、口腔ケアの介助見守り確認を行っている。義歯は定期的にポリデント消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の訴えを尊重しトイレ案内を行っている。常に情報を共有し入居者一人ひとりの排泄パターンを把握できるよう努めている。居室にポータブルトイレを置くなど、排泄がスムーズに行えるよう工夫している。	排泄パターンを把握し、動作や表情等、小さな情報も共有してトイレ誘導して自立排泄を支援している。夜間は個人に合わせた排泄スタイルを見つけ、リハビリパンツやパットでのトイレ誘導をして自立排泄に向けた支援をしている。ポータブルトイレの使用がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体操、歩行練習等なるべく排便の滞りがないよう努めている。水分摂取の少ない方には水分を促したり、回数を増やしたり飲み物を替える等促せるよう工夫をしている。難しい場合も主治医の指示のもと下剤の調整を行い調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者のその日の気分やペースに合わせて、曜日や時間を臨機応変に変更、対応している。失禁等汚染がある時は曜日や時間に関係なく入浴を実施し清潔保持に努めている。	入浴日は基本的に週2回となっているが利用者の体調や意向に合わせて気持ち良い入浴支援をしている。利用者のこだわり等を職員が共有しながら声掛けを工夫している。ゆず湯や入浴剤を使って、無理強いしない入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせて臥床時間を設けたり、夜間は入居者のペースで居室に戻ってもらっている。その日の気分や体調、生活習慣に合わせて活動を促し、安心して過ごせるよう環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調や行動、排便や皮膚状態、食事摂取量に変化があれば主治医に報告している。薬の変更等職員で把握できるよう記録に残し、申し送りしている。副作用の情報共有も行っている。また、薬事情報もファイルに綴じていつでも見れるようにし、与薬は介助し、飲み込みの確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの活動等の催し物を取り入れ、今までの趣味活動や楽しんでいたことを把握し、一人一人が役割や活動に生きがいを見出せるよう取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外の空気に少しでも触れることができるよう、近くの公園まで散歩や窓を開け体操や運動をしたり、花見や外出レクの機会を設けるようにし、季節の移り変わりを感ぜられるよう支援している。	散歩やドライブ等、戸外に出かける支援をしているが、コロナ禍の中、利用者が望む、花見・ドライブ・外食等、戸外に出かける事ができていない。本市や小学校運動会見物・あじさい花見に外出支援したが、家族や地域の人々と協力を密にして外食や外出できる機会を増やす取組みを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の心配や、大切さを理解している入居者には家族からお金をちゃんと預かり保管していることを伝える等配慮し支援している。一緒に買い物に出かける等の支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族から手紙が届いたり、携帯電話の持ち込みもできるため、お持ちの入居者様は自由に連絡をされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花や装飾を行っている。室温や湿度を測定し過ごしやすい空間づくりに努めている。共用スペース(台所・食堂)には常に食器洗いの音、ごはんの匂い、昔なじみの音楽、生活感が身体で感じられるよう家庭的な雰囲気に心掛けている。	フロアは日光が差し込み明るく、定期的な窓の開閉、温度・湿度をチェックしている。壁に掲示しているちぎり絵や絵馬等の作品は、毎月利用者参加で作成し季節が感じられるよう工夫している。ソファがあり、利用者が快適に過ごせる環境作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペース(台所・食堂)にはソファや椅子が置いてあり座席やテーブルだけでなく、入居者同士でコミュニケーションが円滑に図れるような空間を提供できるよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていた家具や使い慣れたもの、好みのものを持ってきてもらい、生活環境が大きく変化がないようにして、居心地よく暮らせるように支援している。	遺影・位牌・テレビ・テーブル・椅子・ぬいぐるみ等の好みの物が持ち込まれている。ダンスやハンガーがあり、家族や本人と話し合いながら取り出し易い様に整理されている。エアコン、サーキュレータ等で室内温・湿度も保持され居心地よく暮らせる環境ができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置や部屋の位置は分かりやすく表示し、廊下すべてに手すりが設置してあり安全に移動ができるようにしている。また、歩行器等使用して頂き、可能な限り自立した生活ができるよう支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない